



## INDEX

- 会長挨拶、学長挨拶、義援金の報告・御礼…… P2
- 震災後の岩手大学の状況と取組…………… P3
- 同窓会連合の活動状況…………… P4~5
- 各同窓会の活動状況…………… P6~7
- 岩手大学の情報…………… P8



## 岩手大学同窓会連合会長挨拶



会長 太田原 功

2009年6月1日岩手大学創立60周年記念日に発足した岩手大学同窓会連合は4年目を迎えました。大学主催行事として2008年に盛岡で開催された「卒業生・修了生と学長との懇談会」は第2回八戸の後、第3回仙台からは大学と同窓会連合との共催行事と位置付けて開催され、札幌、東京と会を重ねて参りました。仙台、札幌、東京、3会場共、多数の同窓生のご参加を頂き、大学へのご理解と岩手大学同窓生の絆を深めて頂いたものと存じます。第1部懇談の部では、大学の現況を

お伝えし、ご参会の皆様からのご質問と大学への要望等は大学運営の参考としてお伺っております。第2部懇親の部では、4学部同窓生相互と学長他、大学運営に関わる方々と親しく情報交換して頂いております。今後共引続き開催し、皆様のご意見をお伺いしつつ内容の充実を図りたいと考えております。

2013年度は盛岡開催を予定しております。この機会に懐かしい盛岡と母校をお訪ね頂き、絆を深めて頂ければ幸いです。

## 創立63周年、変わるもの変わらぬもの



岩手大学長 藤井克己

平成24年6月に岩手大学は創立63周年を迎えました。昭和24年6月に3学部で発足の折、4年制学生の入学定員はわずか390名でしたが、現在は4学部で1,075名と3倍に増えています。何よりも大きな変化は女子学生の増加でしょう。5%ほどの比率が40%強へと増え、キャンパスのたたずまいは、明るく華やかなものへと一変しました。

一方で、この間も変わらぬもの、それは学生の堅実な学びの姿勢です。学風ともいえるこれらの流れは、社

会からも高く評価されているところですが、諸先輩方がこれまで営々と築いてこられたものに他なりません。岩手大学では、東日本大震災の被災直後より『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを』結集して取り組んできました。特に被災学生支援基金を立ち上げましたところ、同窓会様からは多くのご芳志を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、今後とも母校岩手大学に物心両面で変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

## 東日本大震災に係る義援金の報告と御礼

岩手大学同窓会連合会長 太田原 功

平成23年3月11日（金）に発生いたしました「東日本大震災」により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

同窓会連合では、東日本大震災により被災した岩手大学生を支援することを目的に、「岩手大学同窓会連合義援金」を立ち上げ、平成23年4月より各学部同窓会を通じ、義援金の募集を行っております。その結果、卒業生及び卒業生関連の多数の方々から沢山のご寄付をいただき、集まった義援金は8,583,770円となりました。多くのご支援・ご協力誠にありがとうございました。お寄せいただいた義援金は全額を大学に寄付し、実家

が全半壊の被害を受けた学生、家計を支えていたご家族を亡くした学生、福島原子力発電所事故の影響で実家が警戒区域内等に指定された学生など、震災による被害を受けた学生への修学支援等の一助として使用いただいております。

義援金の募集は、今年度も引き続き行っております。これからも被災学生の救済支援や被災地域の復興のため、同窓会連合としての協力を模索しつつ、「オール岩大」で復興支援に取り組んでいく所存です。今後とも一層の温かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

# 東日本大震災に係る岩手大学の状況と復興支援の取組

平成23年3月11日(金)に発生した東日本大震災により、岩手県は甚大な被害を受け、岩手大学でも残念ながら前途有為の学生が1名犠牲となりました。心よりご冥福をお祈りいたしますとともに被災された方々には謹んでお見舞い申し上げます。

ここに岩手大学の震災後の状況とともに、教職員・学生が一丸となり取り組んでいる復興支援の活動をお知らせいたします。被災地復興には多くの時間がかかりますが、少しでも早い復興に向け様々な活動を行っています。

## ~2012年 岩手大学の東日本大震災復興支援への主な取組

### 平成23年3月11日(金) 14:46分発生 東日本大震災発生(※盛岡市震度5強)

3月11日

- 「危機対策本部」を設置

#### 【岩手大学の被災状況】

##### ①学生・児童・教職員の被災状況

犠牲者：1名(学部学生)、要支援学生：377名(24.10.1現在)、被災教職員：14名

##### ②建物・設備に関する被害

建物：「危険」「要注意」はなかったが、天井の破損、水漏れ等はある。  
設備：分析機器等、修理・メンテナンスが必要な物品あり。



23.9.28 / 同窓会連合から義援金贈呈

3月12日～  
3月24日

- 学用品、ICT機器等の物資支援開始
- 「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金」の立ち上げ  
(岩手大学被災学生への給付(10万円)を目的とした募金。計290名へ給付)  
※同窓会連合も計8,583,770円を寄付。



学生ボランティア活動

4月1日  
4月6日～

- 「岩手大学東日本大震災復興対策本部」を設置
- 移動診療車による被災動物の診療を開始
- 多様な学生ボランティア活動  
(24.10.31現在延べ1,567名が活動)

4月29日～

- 教職員によるボランティア活動  
(23年10月までに延べ298名が活動)

10月1日  
10月30日

- 「岩手大学三陸復興推進本部」及び釜石サテライトの設置(現地スタッフ派遣)
- 東京海洋大学及び北里大学と「三陸水産業の復興と地域の持続的な発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」を締結  
三陸水産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウムの開催



23.10.1 / 釜石サテライト設置



23.10.30 / 3大学連携推進基本合意書調印式

平成24年  
1月7日

- 「全国水産系研究者フォーラム」を開催  
水産系分野の三陸研究拠点形成を目指し、全国水産系研究者フォーラムを開催(全国の研究者・水産関係者・行政関係者等約130名が参加)

3月1日

- 「農地復興ワークショップー耕作土壌の回復に向けてー」を開催  
津波で被災した農地の復興を推進するため、農学系研究者及び農業関係者によるワークショップを開催。



24.3.22 / 寄贈されたワンにゃん号

3月22日

- マースジャパン社から岩手大学にペット専用移動診療車「ワンにゃん号」を寄贈  
マースジャパン社が実施している被災地支援の一環として、岩手大学にペット専用移動診療車を寄贈。農学部附属動物病院が行う被災動物支援活動に活用

4月1日

- 「岩手大学三陸復興推進機構」を設置  
復興推進本部を発展的改組し、学則に基づく全学組織に格上げ。復興支援に携わる教職員数を拡充し、復興支援体制をさらに強化。

4月3日

- 「岩手大学地域防災研究センター」を設置  
工学部附属地域防災研究センターを文理融合型の全学施設として強化・充実。
- 「久慈エクステンションセンター」を設置  
三陸沿岸での情報収集・発信や関係機関との連絡調整機能の強化のため、久慈市にエクステンションセンターを設置。大学本部・釜石サテライト・関係自治体等と連携・協力し、復興に向けた各種事業を推進。



24.4.3 / 久慈エクステンションセンター設置

4月12日

- 学生を対象とした「震災復興の取組報告会」を開催  
学生を対象として、本学の震災復興の取組について理解してもらうとともに、学生ボランティア活動への積極的な参加を啓発するために、取組報告会を開催。これまでにボランティア活動を行ってきた学生による活動報告が行われた。

8月6日

- 「第1回三陸復興推進会議」を開催  
本学の復興支援活動について、県内各界の有識者と意見交換を行う三陸復興推進会議(議長:岩手大学長)を初開催。第1回目の会議では、水産業とものづくり産業復興に関する取組を中心に意見交換が行われた。



24.10.1 / 宮古エクステンションセンター設置

10月1日

- 「宮古エクステンションセンター」を設置  
宮古市にエクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト、久慈エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。

11月2日

- 第7回マニフェスト大賞にて、震災復興支援・防災対策最優秀賞を受賞  
「第7回マニフェスト大賞」(マニフェスト大賞実行委員会主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催)において、自治体や民間企業、市民団体などによる活動を表彰する「震災復興支援・防災対策賞」の最優秀賞を岩手大学が受賞。



24.11.2 / 第7回マニフェスト大賞授賞式

## 平成23年度事業報告について

### 1. 理事会の開催

第5回：平成23年5月26日(木)

場所：岩手大学事務局第1会議室

- 議題1. 義援金の募集について  
2. 次期会長等の選出について  
3. 平成22年度事業報告(案)について  
4. 平成22年度決算(案)及び会計監査結果について  
5. 平成23年度事業計画(案)について  
6. 平成23年度予算(案)について

第6回：平成24年3月5日(月)

場所：岩手大学事務局第1会議室

- 議題1. 第5回卒業生・修了生と学長との懇談会について  
2. 平成24年度事業(案)の検討について

### 2. 運営委員会の開催

・平成23年4月～平成24年3月まで計3回開催(メール会議含む)

### 3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会(第4回)」の開催

・大学とともに主催し、懇談会を開催した。

【内容】大学側からの大学の現状と取組状況の紹介、意見交換など

日時：平成23年6月25日(土) 15時～

開催場所：KKRホテル札幌(札幌市中央区)

参加者：120名

### 4. 会報の発行

平成23年12月 第3号発行

(掲載内容)：同窓会連合義援金の御礼、平成22年度事業報告、卒業生・修了生と学長との懇談会(第4回)の報告、各同窓会の情報、大学の情報 など

### 5. 在学生への支援

・大学で実施している「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」の2事業の支援を行った。(金銭補助)

### 6. ガンダイニングへの協賛

・岩手大学紹介番組「ガンダイニング」(IBC岩手放送)への協賛を行った。

【放送日】平成23年10月11日(火)～平成24年1月10日(火)

毎週火曜日 計13回放送

エンディングでの表示

“私たちは岩手大学を応援しています 岩手大学同窓会連合”

### 7. 東日本大震災に係る義援金の募集

東日本大震災で被災した岩手大学生を支援するため、義援金の募集を行った。

※集められた義援金については、大学で行っている“東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金”に寄付され、在学生の修学支援資金として使用されている。

## 平成24年度事業計画と実施状況について

### 1. 理事会の開催

第7回：平成24年6月11日(月)

場所：岩手大学事務局第1会議室

- 議題1. 平成23年度事業報告(案)について  
2. 平成23年度決算(案)について  
3. 平成24年度事業計画(案)について  
4. 平成24年度予算(案)について  
5. その他

・卒業生・修了生と学長との懇談会(第6回)開催場所について など

第8回：平成24年11月19日(月)

場所：岩手大学事務局第1会議室

- 議題1. 平成25年度の卒業生・修了生と学長との懇談会(第6回)について  
2. 次期役員について

### 2. 運営委員会の開催

計2回開催 第19回：平成24年4月26日(木)

第20回：平成24年10月10日(水)

### 3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会(第5回)」の開催

・岩手大学との主催事業として、平成24年6月30日(土)に東京都を会場に実施した。

・同窓生への周知として、東京を中心とした首都圏在住の卒業生に対し往復ハガキによる案内を行い、周知を図った。

・欠席者分の会費、持込品の購入費等の補助を行った。

### 4. 会報(第4号)の発行

例年同様、12月末頃に会報第4号を発行する。

### 5. 在学生への支援

大学で実施している「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」の2事業の支援を行った。(金銭支援)

### 6. ガンダイニングへの協賛

岩手大学紹介番組「ガンダイニング」(IBC岩手放送)への協賛を引き続き実施する。

### 7. 開学記念行事への支援

毎年6月に開催している岩手大学開学記念行事への支援を行った。(同窓生に対する行事への参加の呼びかけ)

### 8. 東日本大震災に係る義援金の募集

被災した学生を支援するため、義援金の募集を継続する。

## 《平成23年度 岩手大学同窓会連合 決算》

### 【収入の部】

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	2,000,000	2,000,000	0	4同窓会×500,000円
前年度の繰越金	1,473,655	1,473,655	0	
その他収入	347	311	△36	利息
計	3,474,002	3,473,966	△36	

### 【支出の部】

(単位：円)

項目	予算額	決算額	残額	備考
事業費	1,840,000	1,472,748	367,252	①卒業生・修了生と学長との懇談会への協力 599,158 (広告費・旅費) ②会報発行 516,090 (印刷費、発送補助費) ③在学生への支援 200,000 (事業支援費) ④ガンダイニング協賛費 157,500
会長活動経費	100,000	10,000	90,000	
各同窓会への活動支援費	600,000	600,000	0	150,000円×4同窓会
会議費	4,800	5,040	△240	(お茶代)
事務費	34,000	20,125	13,875	(振込手数料、感謝状作成費等)
予備費	895,202	0	895,202	
計	3,474,002	2,107,913	1,366,089	

収入決算額－支出決算額＝繰越額

3,473,966－2,107,913＝1,366,053



## 卒業生・修了生と学長との懇談会（第5回）の開催

平成 24 年6月 30 日（土）、東京都のアルカディア市ヶ谷を会場に「卒業生・修了生と学長との懇談会（第5回）」が開催されました。平成 20 年度から毎年実施されているこの懇談会は、これまでに盛岡市、八戸市、仙台市、札幌市で行われ、東京都を会場とした今回は、東京都を中心とした首都圏在住の方を中心に約 130 名の参加がありました。

懇談会では、まず藤井学長から、同窓会連合設立に至る経緯、女子学生の増加など大学の変化及び昨年3月11日に発生した東日本大震災とその対応などの報告を含めた挨拶がありました。次いで桑島同窓会連合会長代理から、被災学生への義援金贈呈について、また、今後の同窓会連合について「同窓会連合発足から4年目になるが、皆様のご意見をいただきながら、設立の趣旨に沿って各同窓会と岩手大学の発展に寄与し、地域社会に貢献できるように努力していきたい。」と挨拶がありました。

続いて、岩渕理事（総務・地域連携・国際連携担当）から、東日本大震災からの復興への取組状況について、高畑理事（教育・学生担当）から、学生の就職状況や学生寮（自啓寮・同袍寮）の改修、環境や男女共同参画への取組について、さらに各学部代表者から、最近の学部の取組等について説明がありました。

その後の質疑応答・意見交換では、震災復興支援の取組、就職活動への大学側の取組、学部間の連携などについて、岩手大学に関する幅広い様々な意見が出され、参加者の母校への関心の高さを窺い知ることができました。

懇談会の最後には、各同窓会長から挨拶があり、最近の活動についての報告などがありました。

懇談会終了後に行われた懇親交流会では、学部年代に関わらず親睦を深め合い、最後は卒業生全員で学生歌を歌い、盛会のうちに終了しました。

来年度は7月13日（土）に盛岡市を会場に開催する予定ですので、ぜひご参加ください。  
詳細については決まり次第ホームページ（<http://alumni.iwate-u.ac.jp/>）に掲載いたします。



懇談会の様子①



懇談会の様子②



懇親交流会の様子①



懇親交流会の様子②

## ガンダイニングへの協賛について

岩手大学同窓会連合では、岩手大学の様々な活動やあまり知られていない魅力を卒業生や地域の皆様に知ってもらい、より親しまれる大学になれるよう岩手大学を応援するために、岩大を紹介するテレビ番組「ガンダイニング」の協賛を行っています。

この番組は、大学内の様々な取組や研究、学生の姿を紹介するミニバラエティ番組で、今年で第8回を数えます。アシスタントナビゲーターを務めるお馴染みの岩手大学イメージキャラクター「がんちゃん」をはじめ、今年度も現役の岩手大学生がリポーターを務め、大学の“いま”を元気に伝えています。

興味のある方はぜひご覧ください！

### 【平成24年度放送日程】

IBC岩手放送テレビ(TBS系列)  
平成24年10月23日(火)～平成25年3月5日(火)予定  
毎週火曜日/21:54～(3分間) 計13回



がんちゃん

※県外在住の方は、岩手大学ホームページ（<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/gandainning.shtml>）から過去1年分の放送をご覧ください。



リポーターの西郷さん(左)と関向さん(右)

## 「海外留学派遣事業」「国際ボランティア等参加者支援事業」への支援



国際ボランティア参加者の様子

同窓会連合では平成 22 年度から在学生への支援として、「海外留学」及び国際教育交換協議会（CIEE）が主催する「国際ボランティア事業」「国際エコボランティア事業」等に参加する学生に対し、大学を通じ参加経費の一部支援（年間 20 万円）を行っています。「海外留学」とは、主に岩手大学が学生交流協定を締結している海外大学への交換留学や語学研修などで、「国際ボランティア事業」「国際エコボランティア事業」等は、城や教会の修復、社会福祉、子供達との交流、環境保護に関するボランティアなどを行うものです。これらの事業に参加する学生には、語学の習得はもとより、普段の日常生活では体験できない多くの貴重な体験を通じ異文化交流の促進・国際理解力を深めることが期待され、今後の学生生活さらには社会に出てからの大きな糧となっています。

同窓会連合はこれからの時代を担う岩大生を応援していきます！

### 【平成23年度実績】

- 国際ボランティア等参加者支援事業採択者……5名(申請者10名)
- 海外留学派遣支援事業採択者……6名

# 七友会 人文社会科学部 同窓会

## Shichiyukai

人文社会科学部卒業生の活躍場所は、学部のもつ特徴から各界広範多岐にわたっています。とりわけ東北地区そして岩手地域においては、行政、金融、マスコミ、観光、教育など様々な分野で、地元地域社会を支える人材の一大供給源となっています。七友会では現在、次世代を背負う後輩学生達の就職、就業への支援強化に取り組んでいるところです。

### <活動報告>

#### ◆就職ガイダンスにおける就職活動支援の取り組み

七友会では、学部の就職委員会などと連携して、人文社会科学部学生の就職活動支援に取り組んでいます。

- ①3年次を対象とした七友会OBによる就職懇談会（人社就職委員会と共同開催）：H.24年6月8日（金）岩手大学学生センターを会場に、「働くこと・就職を考える：「就職」と「仕事」



七友会OBとの就職懇談会風景  
OBとのディスカッション

について自ら考え自ら選択していくために」講師は井筒敬史氏（税理士法人WELLCANON代表）、佐藤伸樹氏（防衛省）、吉田真二氏（岩手県商工労働観光部）、佐藤泰氏（サトープリン

ティング株）、内堀哲氏（ソフトバンクBB株）の5名、他に4名のOBがオブザーバーで参加。第一部は各講師から経歴や職場の紹介、仕事に求められること等の話題提供。

第二部では公務員、一般企業、資格専門職の3つのグループに分かれて、講師と学生のディスカッションが行われました。

- ②学部就職ガイダンス（人社学部教育後援会と共催）：H.24年11月6日（火）に開催。第一部は、岩手県立大学教員の櫻幸恵氏（人社3期生）の講話「人文社会科学部の特徴を活かした就職とキャリア形成～人文社会科学部で学ぶことの強みとは～」(学生センターG1大教室)、第二部は場所を中央食堂に移し、現4年生の就職内定者による就職活動体験報告の後、情報交流・懇親会が行われました。

#### ◆人文社会科学部・学術講演会（奨学寄附金による支援）

今年度は下記の学術講演会が開催されました。

演題「マレーシアの“ジャングル”が教えてくれたことー豊かな自然とそこに潜む問題とはー」菅智美さん（元青年海外協力隊員（JICA）平成21年度3次隊：マレーシア・環境教育）2012年11月13日（火）学生センターG1大教室

### <その他の活動>

同窓会報『七友会だより』の発行〔第34号（24年3月）、第35号（24年9月）〕／評議員会の開催（24年6月16日（土）：アイーナ（岩手県民交流センター）501B会議室）

### <今後の活動予定>

七友会設立30周年記念事業の記念DVDの参加者への配布／就職ガイダンスへの支援強化／復興への支援、震災の記憶を風化させないための活動など。

# 一祐会 工学部 同窓会

## Ichiyukai

岩手大学同窓の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

一祐会の今年の最も大きな事業は、一祐会創立70周年記念式典です。以下、一祐会のここ1年程の活動を紹介させていただきます。

#### ●一祐会創立70周年記念式典

岩手大学工学部同窓会（一祐会）70周年記念式典が平成24年9月16日ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで行われました。工学部の前進の盛岡高等工業学校は昭和14年に設置され、2回生の卒業式の昭和17年9月16日に同窓会が創設され、そこから数えて70年になります。盛岡高等工業学校は昭和19年に校名を盛岡工業専門学校に改称、昭和24年に岩手大学工学部となり、現在に至っております。

記念式典は、小櫻忠夫（採鉱22）実行委員長の経過報告（写真）、渡邊喬（機械39）一祐会会長の挨拶、藤井克己岩手大学長の祝辞があり、功労賞として、関本善則氏（鉱山30）、太田原功氏（電気29）、小田益氏（機械23）、鎌田雅夫氏（金属29）、小笠原義照氏（電気22）、和田浩氏（機械30）に渡邊会長から表彰状と記念品が贈呈されました。また、工学部に150号の日本画「森閑」を寄贈された佐藤成元氏（機械31）に感謝状と記念品が贈呈され、受賞者を代表して小田益氏から挨拶がありました。

引き続き記念祝賀会が行われ、渡邊会長の挨拶、西谷泰昭工学部長、太田原功同窓会連合会長の祝辞があり、阿部源祐氏（電気16）の乾杯の音頭で会が始まり、200人を超える参加者で大いに賑わいました。

なお、記念式典に先立ち、「歌でたどる啄木の生涯」と題し、石川啄木記念館学芸員山本玲子様より、記念講演を頂戴しました。

#### ●その他の活動

学生へのサービスとして、企業合同説明会を平成23年12月26日に開催しました。同窓生が勤務する企業を始め45社のご参加を頂き、説明会後の交流会も盛会に行われました。

一祐会会誌「北杜」60号を平成24年3月1日付けで、16,800部を発行しました。

平成24年度一祐会総会は、札幌開催となりました。平成24年5月19日（土）16時より、ホテルサンルートニュー札幌において、佐々木義明氏（電気46）による「東日本大震災～大津波襲来のありさま 石巻～」と題した講演会に引き続き開催されました。

また、一祐会も協力した、平成24年度第2回岩手大学ミュージアム企画展「盛岡高等工業の面影」が平成24年10月5日（金）～平成24年10月31日（水）の間、岩手大学図書館1階のアザリアギャラリーにおいて開催されました。

なお、今年度中には、「北杜」61号の発行、企業合同説明会、学内教職員の一祐会会員による懇談会などを実施する予定です。



小櫻忠夫実行委員長による挨拶および経過報告



# 北桐会

教育学部 同窓会  
Hokutoukai

平成24年度の北桐会は、6月16日に評議員会が開催され、会務の報告と事業計画・会計等承認されました。常任理事会を中心に会務の具体的計画を進めております。本誌では23年12月から24年11月までの会務報告をいたします。

## ①北桐ホームページの更新

更新が遅れていましたホームページの更新を少しずつ行っております。

掲載しています電話番号に誤りがありました。訂正しております。019-621-6618

<http://www.edu.iwate-u.ac.jp/hokutou/>

## ②植樹事業

5月23日に植林地の現状視察調査を行いました。武田豊蔵元会長を中心にこれまでの事業の整理を行っております。

## ③支部活動

現在16支部があり、総会等の報告が寄せられています。本年は支部規定の整備を評議員会で承認頂き、詳細について検討しているところです。6月30日東京で開催されました、岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会（第5回）へ関東周辺の皆さんに参加して頂きました。御礼申し上げます。来年第

6回の同会が盛岡での開催が決定されております。盛岡支部の方々にご協力して頂くこととなりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



北桐会黒川会長挨拶

## ④『北桐』の発行

北桐は51号の発行をいたしました。皆様のお手元に届いていると思いますが、ご意見感想をお寄せください。本年度も会員の皆様からご協力いただきました発行・発送協力費はこの発送経費の一部に充当させていただきました。

## ⑤準会員支援活動

新入生へ入学記念品として学生歌のCD（デザインを新しくいたしました。）と会報を、卒業・修了記念品として岩手大学Tシャツ（デザインを新しくいたしました。）を贈呈しております。教育学部へは学生教育支援金として、50万円を寄附いたしております。現在、教育学部では就職後の追跡調査を行っており、北桐会として名簿の提供を検討しております。

## ⑥北桐会60周年記念事業について

来る25年には北桐会創立60周年を迎えます。実行委員会を立ち上げ、記念事業の検討をしております。11月9日（土）記念講演会、記念式典などを予定しております。記念名簿の発刊につきましては25年8月発刊の予定です。

# 北水会

農学部 同窓会  
Hokusuikai

## 《平成24年の活動など》

### ①第6回北水会長賞表彰式の開催

昨年の東日本大震災の発生により中止された北水会長賞表彰式が、卒業式の前日3月22日、2年ぶりに実施されました。北水会長賞は母校が誇る大先輩「宮澤賢治」の得業論文の精神を尊重し、これを顕彰する事業として平成18年度に創設されたものです。今回で6回目を数えますが、昨年の東日本大震災という歴史的な大災害の中、多くの苦労を伴いながらもまとめられた卒業生8名の優秀卒業論文に対し、表彰状と顕彰盾を授与いたしました。今回は、実家に栄誉として飾られていた表彰状と盾を、昨年の津波で流失してしまった5年前の表彰学生に対しても再交付し、感謝されました。被災した実家の親御さんが、御子息の栄誉を大変誇りにしておられたことを指導された先生から伝え聞き、この賞の持つ意味と重さを知らされました。

### ②評議員会・各支部総会の開催

本会の総会にあたる評議員会は、例年通り5月の最終金曜日25日に開催されました。出席者が毎年同じ顔ぶれとなり、ここ数年減少してきているのが気になります。60歳代前半の若い理事、評議員の出席を期待したいものです。本年の評議員会では、新入生の入会減少に伴う財務基盤の脆弱化への対応について、特に審議をいただきました。この後各地で支部

総会が開催されましたが、栃木支部総会では、会議前に「宮澤賢治」の盛岡高等農林学校在学中の文芸学友「小菅健吉」について、御子息である元栃木県副知事小菅 充氏から賢治と父親との交友などについて、有意義なお話をいただきました。

### ③農業教育資料館の改修・思い出深い卒業写真

旧盛岡高等農林学校本館「農業教育資料館」（国重要文化財指定建造物）は本年5月から改修工事が行われており、10月末を竣工予定としています。現在、所蔵資料の整理をしており、写真や書籍等の電子化が進められていますが、2階の大講堂に展示の卒業写真（一部を除き、明治39年第一回卒から昭和48年3月卒まで保管）がすでに電子化されています。この写真の存在はあまり知られていませんが、クラス会の開催を事前に連絡いただいたクラスには、この写真を印画して差し上げ、大変驚き、喜ばれています。



第6回北水会長賞表彰式

## 「地域防災研究センター」及び「平泉文化研究センター」の設置

地域特性に応じた「多重防災型まちづくり」と地域の安全を支えるための「災害文化の醸成と継承」を基本とする地域に根ざした防災システムの構築と東日本大震災からの復興を推進するため、平成24年4月に「岩手大学地域防災研究センター」が設置されました。



看板を上掲する藤井学長(左)と新センター長(右)

当センターは、自然災害解析部門、防災まちづくり部門、災害文化部門の3部門から成り、自然災害の調査・解析、防災まちづくりの計画・設計、防災教育と人材育成など、地域防災と復興まちづくりへの支援に取り組んでいます。

また、世界遺産「平泉」、特に仏国土の理想郷として造営された平泉の庭園遺跡群を中心に、その意義を解明することを目的として、平成24年4月に「岩手大学平泉文化研究センター」が設置されました。



看板を上掲する藤井学長(左)と新センター長(右)

当センターは、平泉に関わる研究者・関係諸機関・海外の諸大学などと連携を図りつつ、平泉文化を学際的(理化学的分析を含む)かつ国際的な観点から研究することにより、世界遺産「平泉」の意義を解明し「平泉学」として総合化していくことを目指しています。

## 陸上競技部、インカレで躍動！岩大女子初！教育学部4年 藤沢さん女子400メートル制覇！



優勝を報告し、学長からの花束を手にする藤沢さん

平成24年9月11日に東京・国立競技場で行われた第81回日本学生対校選手権(インカレ)女子400メートル決勝で、教育学部4年の藤沢沙也加さんが優勝を飾りました。岩大生がインカレを制覇したのは、2002年に男子円盤投げで優勝した佐々木大志さん以来10年ぶり、女子学生では初の快挙です。

「決して器用ではないが、限られた練習時間の中で着実に進歩する」持ち味で、徐々に成績を伸ばし、インカレでは、3年生で6位入賞、そして4年生になった今年、ついに念願の全国制覇を果たしました。

今回のインカレでは、藤沢さんのほか、3名の岩大生が上位入賞を果たしました。岩大陸上競技部員のインカレ入賞は14年連続、学校対抗では出場した148大学中、女子が8位、男子が23位という好成績を残しました。



インカレで入賞した陸上競技部のみなさん

## 工学部に新校舎が落成しました

工学部では平成24年6月に総合教育研究棟(環境系)が落成しました。

本学の次世代型キャンパスに向けて整備された本研究棟には、同時通訳設備の整備により国際会議・国際シンポジウムにも対応可能な「復興祈念銀河ホール」のほか、吊物設備や移動式観覧席など本学初の設備を導入し、高さ約6m、広さ約250㎡と広大な空間による新しい融合的教育研究が可能な「デザイン・メディア工学協創工房」などが整備されています。

また、化粧台カウンターとロッカールームが備えられた、本学初で国立大学でも珍しい女性専用の「パウダールーム」が設置されています。女子学生のキャンパスライフがより快適になります。



落成した総合教育研究棟(環境系)(手前と中央)



本学初の女性専用パウダールーム



復興祈念銀河ホールの様子

## 環境への取組(第21回地球環境大賞文部科学大臣賞受賞)

岩手大学は、平成24年2月29日に、フジサンケイグループ主催「第21回地球環境大賞」の「文部科学大臣賞」を受賞しました。



文部科学大臣賞授賞式での記念写真

地球環境大賞は、平成4年に「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、産業界を対象とする顕彰制度として、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン、名誉総裁・秋篠宮殿下)の特別協力を得て創設されました。

地球温暖化防止や循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、環境保全活動・事業の促進や、21世紀の社会システムの探求、地球環境に対する保全意識の一段の向上を目的としています。

岩手大学が文部科学大臣賞を受賞した理由として、「持続可能な社会の形成に貢献する人材育成の推進」が挙げられています。「環境に配慮した教育・研究・社会貢献活動を実践。環境を基軸とする持続可能な社会づくりのための教育(ESD)に力を入れている。ESD教養教育の再構築「学びの銀河プロジェクト」の実績を踏まえ、現在は「ISO14001と産学官民連携を活用した『π字型』環境人材育成プログラム」を推進。基礎的環境力に加え、専門性と実践的環境力を備えた環境人材の育成に注力している」ことが評価されました。今回の受賞は、10年以上にわたる岩手大学の「持続可能な社会の形成に貢献する人材育成の推進」が評価されたことによるものです。

平成24年4月24日には、秋篠宮同妃両殿下ご列席のもと、東京都元赤坂の明治記念館で、第21回地球環境大賞授賞式が挙行されました。藤井克己学長、小川智理事(研究・環境担当)・副学長その他、教職員、鷹屋敷ありさ委員長を始めとする岩手大学環境マネジメント学生委員会所属の学生も出席しました。レセプションでは、秋篠宮同妃両殿下と環境マネジメント学生委員会所属学生が和やかに懇談される様子も見られました。

この受賞を契機に、より一層環境人材育成に取り組んでいきます。



文部科学大臣賞トロフィー

## 編集後記

記録づくめの猛暑にみまわれた盛岡、さわやかな秋は夏に居場所を追われ、9月末には湿気と熱気の台風が三陸沖をかすめて、また夏へと逆戻りでした。ふと、気づいてみると晩秋の装いで、学内の紅葉もピークを越えたようです。

昨日まで夏、今日から秋深し、そして初冬へ。そんななか会報第4号をお届けします。各同窓会の活動をはじめ、恒例となった卒業生と学長との懇談会や、岩手大学の復興支援の取り組みをお伝えします。皆様のご健康とご健勝を祈りつつ。(K)

岩手大学同窓会連合会報 No.4  
2012.12 発行  
発行事務局  
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8  
TEL.019-621-6994  
FAX.019-621-6014  
E-mail:dosokai@iwate-u.ac.jp